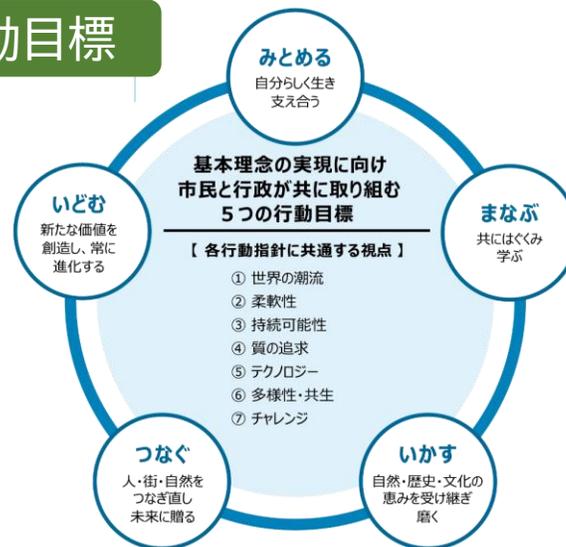


## 基本理念

岳：自然豊かな環境に感謝し  
楽：文化・芸術を楽しみ  
学：共に生涯学び続ける ことにより

三ガク都に象徴される松本らしさを  
「シンカ」(進化・深化)させる

## 行動目標



## 目指す まちの姿

一人ひとりが豊かさ  
と幸せを実感できるまち  
松本の地域特性を最大限に活かした循環型社会

三ガク都の「シンカ」とは (どのような状態になればシンカしたと言えるか)

- 松本の特徴として“説明されるもの”から、“市民の暮らしの中で自然に語られ、見えるもの”
- 非日常の象徴を増やすことではなく、日常の風景として三ガク都が“にじみ出る”状態をつくること

# 日常に「三ガク都」が“にじみ出る”松本のすがた

※本資料は、基本構想2030及び第12次基本計画(案)を基にAIが生成したワードを整理したものであり、三ガク都の「シンカ」について、委員の皆さんに議論いただくための資料です。したがって、市の公式見解ではなく、議論を深めるための一例としてご覧ください。

基本構想2030  
策定時(2021)

シンカした  
松本のすがた

シンカの段階  
のイメージ

“点”として存在する

“線”としてつながる

“面”として広がる

岳

自然があるまち

自然は「誇るもの」「守るもの」

語られる場面は  
観光やPRが中心

自然と共に暮らすまち

通勤・通学中に山や天候の  
話題にするのが自然になる

市民が「自然環境の変化」を  
自分ごととして語り始める

自然と未来を選び続けるまち

環境配慮や保全が  
特別な行動ではなく習慣に

市民が自然の保全・活用について  
当たり前で議論している

子どもが将来像として  
自然に関わる仕事を描ける

楽

文化があるまち

OMFなど質の高い  
“非日常文化が象徴”

鑑賞する文化が中心

文化に出会えるまち

表現する人はいるが、  
可視化は限定的

街角や公共施設で  
小さな演奏・展示に出会う

文化が立ち上がり続けるまち

世代・国籍を超えた文化的交流が  
日常的に起きている

若者が「松本で表現し続けたい」と思える

まちなかで音・表現・創作に  
出会うことが当たり前

学

学ぶ場があるまち

学びは学校・制度が中心

生涯学習は一部の層のもの

学びがつながるまち

地域・学校・行政が連携した学びが始動

探究活動や地域連携が増えている

学び続ける人が見えるまち

子どもから高齢者まで  
学び姿が日常

若者が一度外に出ても戻って学び直せる

市民が地域課題を  
学びのテーマとして共有している

# 日常に「三ガク都」が“にじみ出る”松本のすがた

基本構想2030  
策定時(2021)

シンカの段階  
のイメージ

“点”として存在する

“線”としてつながる

シンカした  
松本のすがた

“面”として広がる

## 自然があるまち

語られる場面は  
観光やPRが中心

自然は「誇るもの」「守る  
もの」

## 自然と共に暮らすまち

通勤・通学中に山や天候の  
話題にするのが自然になる

市民が「自然環境の変化」を  
自分ごととして語り始める

## 自然と未来を選び続けるまち

環境配慮や保全が  
特別な行動ではなく習慣に

市民が自然の保全・活用について  
当たり前議論している

子どもが将来像として  
自然に関わる仕事を描ける

岳



# 日常に「三ガク都」が“にじみ出る”松本のすがた

基本構想2030  
策定時(2021)

シンカの段階  
のイメージ

“点”として存在する

“線”としてつながる

シンカした  
松本のすがた

“面”として広がる

## 文化があるまち

OMFなど質の高い  
“非日常文化が象徴”

鑑賞する文化が中心

## 文化に出会えるまち

表現する人はいるが、  
可視化は限定的

街角や公共施設で  
小さな演奏・展示に出会う

## 文化が立ち上がり続けるまち

世代・国籍を超えた文化的交流が  
日常的に起きている

若者が「松本で表現し続けたい」と思える

まちなかで音・表現・創作に  
出会うことが当たり前

楽



# 日常に「三ガク都」が“にじみ出る”松本のすがた

基本構想2030  
策定時(2021)

シンカの段階  
のイメージ

“点”として存在する

“線”としてつながる

シンカした  
松本のすがた

“面”として広がる

## 学ぶ場があるまち

学びは学校・制度が中心

生涯学習は一部の層のもの

## 学びがつながるまち

地域・学校・行政が連携した学びが始動

探究活動や地域連携が増えている

## 学び続ける人が見えるまち

子どもから高齢者まで  
学ぶ姿が日常

若者が一度外に出ても戻って学び直せる

市民が地域課題を  
学びのテーマとして共有している

学

